

市民が考える町田の行財政 その3

町田市の財政と指定管理者制度

—図書館の問題を中心に—

町田市は、この6月15日に「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に基づく、「公共施設再編計画（案）」を公表しました。そこでは、生涯学習センターや図書館、博物館、自由民権資料館、市民文学館など多くの生涯学習・文化関連施設について、「集約化や複合化・多機能化」による総量の圧縮（施設の廃止）、「効率的・効果的」運営（民間委託等）の検討などが示唆されています。

図書館については、この間、資料購入費が大幅に削減され年間貸出冊数が減少傾向にあることを、整理・統合が必要な理由のひとつにあげるなど、きわめて作為的な記述も見受けられます。また、図書館等への指定管理者制度導入については、総務省自体が不適切であるとの見解を示していますが、そうした点について「再編計画」では何も考慮されていません。

こうした中で私たちは、町田の行財政について市民の視点から考える学習会を、すでに2回重ねてきました。今回はシリーズの最終回として、図書館と指定管理者制度の問題を中心に学習します。図書館以外の施設でも共通する内容ですので、ぜひ奮ってご参加ください。

日 時：2017年7月21日（金） 午後6時～8時

会 場：町田市立中央図書館6階ホール

内 容：①町田の図書館はいま—現場からの声—

高松昌司さん（町田市職労図書館六分会協議会）

②町田市の財政と指定管理者制度

伊藤久雄さん（東京自治研究センター理事）

参 加：当日、直接会場へお越しください。参加費：無料

主催：まちだ自治研究センター／町田の図書館活動をすすめる会

問い合わせ：自治労町田市職員労働組合内 まちだ自治研究センター
電話 042-724-2194 または町田市役所内線 5739 FAX042-724-5903

